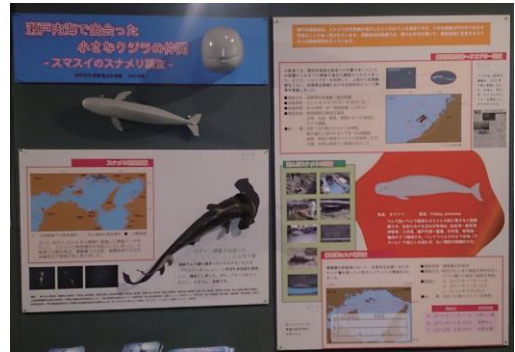


瀬戸内海で出会った小さなクジラの仲間-スマスイのスナメリ調査-

中村清美（須磨海浜水族園）

はじめに

スナメリは、クジラ目ハクジラ亜目ネズミイルカ科に属する鯨類です。ハンドウイルカのような吻や背ビレはありません。丸い頭をしており、背中には一条の隆起があります。隆起の上には小さく硬いボツボツがたくさんあります。日本における主な分布域は、仙台湾～東京湾、伊勢湾・三河湾、瀬戸内海～響灘、大村湾、有明海・橘湾の5つの海域です。須磨海浜水族園では、瀬戸内海東部海域に生息するスナメリを中心に調査研究活動を行っています。



当日の様子

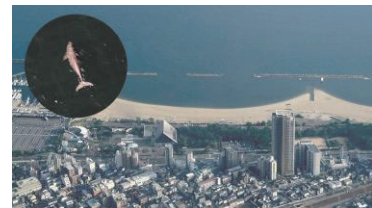
活動内容

瀬戸内海東部海域は、過去の調査で生息数が減少したとされている海域ですが、十分な調査研究は行われておらず、不明なことが多く残されています。そこで、スナメリの実態を明らかにすることを目的に、目視調査や死亡個体の調査、聞き取り調査など様々な手法を用いて調査を実施しています。

目視調査では、船や陸上からだけでなく、ヘリや小型飛行機を利用してスナメリの探索を行います。死亡個体調査では、海岸に漂着したものや混獲個体などを対象に剖検を実施します。また、聞き取り調査では、漁業者などの海事従事者から散歩をしている一般の方まで海で出会った様々な人々から目撃情報はじめスナメリに関する情報収集を行います。



船からの目線



上空からの目線

まとめ

これまでの調査データの蓄積により、瀬戸内海東部海域には広い範囲にスナメリが生息していることが確認できました。特に大阪湾では関西空港周辺で、播磨灘では北部で、備讃海域では庄内半島周辺で多く発見されており、これらの海域はスナメリにとって何かしら重要な海域となっている可能性が考えられます。今後、さらなる調査研究を続け、瀬戸内海東部海域に生息するスナメリの生態を明らかにするとともに、地域での啓発活動を実施していく予定です。



図1 水族園に寄せられたスナメリの目撃場所